

【論文】

反復されるアダプテーション
—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子
に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—

藤城 孝輔
(岡山理科大学 講師)

はじめに

短編小説「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」（1981年、以下「100パー」）、「パン屋襲撃」（1981年）およびその続編にあたる「パン屋再襲撃」（1985年）の三作は、村上春樹の小説の中でも最も頻りに映像化されてきた。鄒波は2020年の論文において中国語圏で映画製作を学ぶ学生による「100パー」のアダプテーションを25作、「襲撃」と「再襲撃」両方を含めた「パン屋」のアダプテーションを5作紹介している¹。私自身が本稿で詳述する調査を行ったところ、「100パー」の映像化作品を54作、「襲撃」と「再襲撃」の両方を含めた「パン屋」の映像化作品を22作確認した。鄒波のリストと単純に合計すれば、「100パー」は少なくとも79作、「パン屋」は少なくとも27作映像化が行われていると判断できる。

「100パー」に関して村上は2010年のインタビューの中で「あれ、なんだか世界的に人気があるみたいです。外国の大学で教材にしているというのを何度も聞いているし、映画科の学生が世界各国でもう七、八本映画にしています。申し込みが多すぎて、今のところ打ち止めにしているくらいです」と述べている²。それでも、原作提供を停止したという2010年以降もYouTubeをはじめとするオンラインの映像配信サイトには学生映画やアマチュアによる自主制作と見られる「100パー」の映像化作品が多数アップロードされている。非商業作品のアダプテーションに対して村上が無料で原作使用の許諾を与えた例も過去にはあり、短編作品を原作とする商業的でない映像化に関しては原作者の許可を得るハードルは本来それほど高いものではない³。それでも、これらの作品のなかに村上側の許諾を得ずに作られたものが少なからず含まれている可能性は否定できない。原作者の許諾の有無に関係なく、アダプテーションを通してこれらの作品を語りなおすことへの意欲の強さが感じられる。

「100パー」と「パン屋」二部作の映像化作品が抜きんで多い理由としては、作品の短さ、物語の構成の単純さ、作品の主題の普遍性や村上の代表作との関連という四つの要因が考えられる。

¹ 鄒波「中国の学生映画に移動した村上春樹文学—『100%の女の子』と『パン屋を襲う』の翻案を中心に—」、曾秋桂編『村上春樹における移動』淡江大學出版中心、2020年、329-358頁。

² 村上春樹／[松家仁之]「村上春樹ロングインタビュー」『考える人』33号、2010年、32頁。

³ 藤城孝輔「*Dansa med dvärgar*（小人たちと踊る）—女性を主人公に「踊る小人」を翻案したスウェーデン映画—」『村上春樹とアダプテーション研究』1号、2023年、63頁。

三作のうち「パン屋襲撃」と「100パー」はどちらも400字詰め原稿用紙換算で約10枚であり、村上が「ひよひよいのひよい」⁴と呼ぶたぐいのごく短い作品である。風丸良彦が「100パー」の映画化について主張するように、映画の尺が作品を音読する長さとはほぼ一致し、「作品世界[を]あっけないまでに凝縮」させることが可能である⁵。これら二作に比べると「パン屋再襲撃」は原稿用紙約37枚と長めであるが、村上の短編小説のなかでは決して長い作品とはいえない。短編小説から短編映画へのアダプテーションを行う場合、長編小説を原作とする場合よりもシーンの取捨選択の幅が限られているため、学生やアマチュアにとって比較的ハードルが低いものと推測できる。

また、三作とも単に作品自体が短いだけでなく、物語が短い時間で完結し、シーンの数も限られている。「100パー」が男性主人公と100パーセントの女性の路上での一瞬の出会いとそれをめぐる主人公の思索と想像の世界を描く一方、「パン屋襲撃」は空腹からパン屋を襲った若者と相棒がパン屋の主人にワグナーの音楽を聴くという条件のもとパンを無料で与えられるまでのある一日の物語、「パン屋再襲撃」はかつてパン屋を襲ったことのある主人公が新婚の妻と夜中にマクドナルドを襲撃する一夜の出来事の話である。作中で実際に起こる出来事の時間はいずれもきわめて短い。アーロン・ジェローは、村上が基本的に長編小説のアダプテーションを拒む一方で短編小説の映画化には比較的寛容であることを踏まえ、短編小説特有の時間性が村上が親しんできた映画を見る体験との親和性をもっているのではないかと仮説を立てている⁶。それが正しいかどうかは別として、作品の短さや一見単純な構成といった要素は、アダプテーションのしやすさに直結していると考えられる。

内容面での普遍性も、文化や国境を越えてアダプテーションが行われる要因の一つであろう。加藤典洋は「パン屋」二部作が英語の短編映画『パン屋再襲撃』(*The Second Bakery Attack*、カルロス・キュアロン監督、2010年)として翻案されたり、ドイツでカット・メンシックのイラスト付き単行本 *Die Bäckereiüberfälle* (2012年、邦題は『パン屋を襲う』)として刊行されたりしている事実に言及し、「なぜこの二編のメッセージは長命なのか。また国境を越えるのか。その背景に、この二つの短篇がポストモダン社会の到来とそれへの抵抗を、ある意味普遍的に軽妙な『おかしみ』のうちに捉えていることがあると思う」と述べている⁷。1980年代以降、欧米の先進国を中心にグローバルな規模で起こっている現象であるポストモダン化を背景とし、「普遍的に」理解可能なユーモアでそれを批評している点に加藤は作品のトランスナショナルな価値を見出しているといえる。一方、「100パー」に関していえば、「原宿の裏通り」⁸という特定の場所を舞台としつつも、ボーイ・ミーツ・ガールという異性愛ロマンスの典型的な状況を主題としており、文化的な背景知識がなくても十分理解可能だといえる。

さらに、村上の代表的な長編作品の主題が見られることもこれらの作品の特徴である。「100パー

⁴ 村上春樹『村上春樹全作品 1990～2000①短篇集I』講談社、2002年、300-301頁。

⁵ 風丸良彦『村上春樹短篇再読』みすず書房、2007年、146頁。

⁶ アーロン・ジェロー「短篇という時間性——村上春樹と映画」、石田仁志／アントナン・ベシュレール編『文化表象としての村上春樹 世界のハルキの読み方』青弓社、2020年、236-237頁。

⁷ 加藤典洋『村上春樹は、むずかしい』岩波書店（岩波新書）、2015年、87頁。

⁸ 村上春樹『カンガルー日和』講談社（講談社文庫）、1986年、19頁。

一」は村上自身が認めるとおり『1Q84』(2009-10年)を生み出す原点となった作品であり、運命的に結びつけられた「100パー」の男女の物語を「すごく大きく膨らませた」ものが『1Q84』における天吾と青豆の関係となる⁹。「パン屋再襲撃」は『風の歌を聴け』(1979年)から『ノルウェイの森』(1987年)にいたる初期作品との連続性が小島基洋によって指摘されている。小島の解釈によれば、「パン屋再襲撃」のなかで語られる主人公の「相棒」は村上が繰り返し描いてきた自殺をする恋人に他ならず、深夜にマクドナルドを襲撃する行為はかつての恋人の死のトラウマという呪いを妻とともに解決しようと図ることの隠喩である¹⁰。当初長編小説のアダプテーションを希望していた翻案者が代替的な手段として長編とつながりのある短編の翻案の許諾を得る例はこれまでも見られた¹¹。「パン屋」や「100パー」の映像化を行った翻案者全員が長編のアダプテーションを目指していたわけではないだろうが、これらの作品が短いながらも運命的な男女の絆や喪失のトラウマといった村上文学の代表的なテーマを凝縮した小説である事実は翻案者が原作を選ぶうえで少なからず影響を及ぼした可能性は否定できない。

本稿では1980年代の自主映画から現代のグローバリゼーションというコンテキストの変遷に目を向けたうえで、今日インターネット上にあふれ返る「100パー」と「パン屋」の映像化作品を動画共有サイトのユーザー生成コンテンツとして検討してみたい。YouTubeやVimeoといったインターネット上の動画共有サイトの台頭により、かつては自主映画の上映会などに鑑賞の機会が限定されていた学生やアマチュアの手による自主制作の映像を容易に検索し、視聴できるようになった。しかし受容面での利便性とどまらず、制作の段階においてもインターネットという媒体は影響を与えていると考えられる。多くのアマチュア映像制作者にとって作品発表の主要な場である動画共有サイトは、個人の表現に自由を与える場であると同時に表現を一定の型にあてはめ、制限を加える側面を併せもつ。個人の表現者とウェブメディアのあいだに見られる交渉は、1980年代日本という本来のコンテキストを離れた「100パー」および「パン屋」アダプテーションの新しいコンテキストとして理解されるだろう。

1 1980年代のコンテキスト——山川直人による『パン屋襲撃』と『100%の女の子』

「100パー」および「パン屋」アダプテーションの嚆矢は、山川直人による16ミリフィルムの短編映画『パン屋襲撃』(1982年)と『100%の女の子』(1983年)である。これらは、低予算のATG映画である大森一樹の『風の歌を聴け』(1981年)とともに当時の日本における自主映画ブームというサブカルチャーの文脈から生まれた作品である。「パン屋襲撃」の映画化にさいして山川は、ATG社長の佐々木史朗や、『ヒポクラテスたち』(大森一樹監督、1980年)の制作助手であり、『パン屋襲撃』でも制作を務める森重晃、『風の歌を聴け』に出演した室井滋らに相談をしていた¹²。ま

⁹ 村上／[松家]「村上春樹ロングインタビュー」32頁。

¹⁰ 小島基洋「一九八五年の『相棒』とは誰だったのか——短編『パン屋再襲撃』の翻訳をめぐる」、小島基洋／山崎真紀子／高橋龍夫／横道誠編『我々の星のハルキ・ムラカミ文学——惑星的思考と日本的思考』彩流社、2022年、94-95頁。

¹¹ 山根由美恵「原作からの〈逸脱〉——森泉岳土『螢』(漫画)における〈削除〉の戦略——『国文学攷』250号、2021年、30-31頁。

¹² 山川直人「製作ノート」、稲田志野／松本淳編『DVD+BOOKLET「パン屋襲撃」』シネマンブレイン、

た、国分寺から千駄ヶ谷に移転していたピーター・キャットで妹の友人がアルバイトをしていた縁で、山川は村上の店に以前から顔を出していたという¹³。長谷正人が示すとおり、自主映画界隈の人的ネットワークのなかから生まれた大森や山川による初期の映画化作品は「喫茶店を経営しながらアマチュア的に小説を書いていた作家とアマチュア的な自主映画作家の仲間感覚のなかで、わいわいと製作が企画された」印象が強い¹⁴。

大森の『風の歌を聴け』と同様、これら二作品には自主映画制作の自由さに由来する形式面での実験性が顕著に見られる。どちらも村上の小説の文章をヴォイスオーバーや会話においてかなり忠実に再現しているが、『パン屋襲撃』ではウディ・アレン監督作『アニー・ホール』（*Annie Hall*、1978年）の冒頭のように主人公がカメラに向かって直接語りかける手法や、「ゲバ字」¹⁵と呼ばれる学生運動のアジビラなどに見られた特徴的な字体を用いた中間字幕による60年代の学生運動のパロディー、ヴォイスオーバーの内容に合わせてレオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晚餐』や東映やくざ映画『仁義なき戦い 代理戦争』（深作欣二監督、1973年）のポスターをインサートするコラージュ的な技法などが展開される。『100%の女の子』においても、現実の出来事をカラー、主人公の想像のなかの出来事を白黒のフィルムで区別し、主人公の主観を際立たせるために白黒のフィルムの一部にセロハン紙を貼りつけて着色する試みが行われている¹⁶。

四方田犬彦はこれらの作品を「ポップで軽快で、表層的な遊戯性に満ちた短篇映画」¹⁷と軽さや浅さを強調した表現で評しているが、山川のアダプテーションに見られる表現は『風の歌を聴け』（1979年）などの小説に見られた一見バラバラの断片的な章を積み重ねるコラージュの技法や奇抜な比喻表現、アメリカの映画や音楽を中心とする大衆文化の引用といった村上の初期文学の特徴と通底する部分が多い。1980年代初頭当時から「映画を作る側には何も言わないで作品を渡すかわり、出来た映画については、何のコメントもしないという姿勢を貫いて」きた原作者の村上が『パン屋襲撃』に対して「面白かった」という感想を述べ¹⁸、『100%の女の子』についても「この映画も僕は好きだ」¹⁹と率直的な賛辞を送っているのも、これらの映画が体現する新しさが従来の村上文学の新しさでもあったためであると考えられる。

山川による村上作品のアダプテーションの新しさは、大森の映画の場合と同様に撮影所時代の日本映画に対する自主映画という映画史のなかで把握することが可能だが、過去の映画史に対する態

2001年、[3-4頁]。

¹³ 同。

¹⁴ 長谷正人「サブカルチャーとしての村上春樹と自主映画」、川崎佳哉編『村上春樹 映画の旅』フィルムアート社、2022年、95頁。

¹⁵ 稲田志野／松本淳編『DVD+BOOKLET「パン屋襲撃」』シネマブレイン、2001年、[31頁]。

¹⁶ 山川直人／室井滋「山川直人インタビュー 2001年3月20日」、稲田志野／松本淳編『DVD+BOOKLET 100%の女の子』シネマブレイン、2001年、[5-6頁]。

¹⁷ 四方田犬彦「村上春樹と映画」、柴田元幸／沼野充義／藤井省三／四方田犬彦編『世界は村上春樹をどう読むか』文藝春秋（文春文庫）、2009年、169頁。

¹⁸ 「映画『パン屋襲撃』を見て原作者の、村上春樹氏は、「面白かった」と言った。」、法政大学学生連盟事業委員会・出版広報センター／THEATER ZERO 編『パン屋襲撃 GAKKAN SPECIAL EDITION』法政大学学生連盟事業委員会・出版広報センター／THEATER ZERO、[1983年]、1頁。

¹⁹ 村上春樹「自作を語る」補足する物語群『村上春樹全作品 1979～1989(5) 短篇集II』講談社、1991年、VI頁。

度は大森とは若干異なる。山川と批評家の曳地信明は『パン屋襲撃』をめぐる対談のなかで「今の実験映画は新しくない。……実験映画でも本当に新しいものはおもしろいですからね。基本的に新しさと面白さは繋がるし、同じようなものだと思うんです」と語り、新しいことに面白さという価値を見出す²⁰。その上で、作品の実験性を前衛と同一視することに躊躇を示したのち、「もっと功[ママ]撃的なものです。それには我々より一つ上の世代を失くさない。古典性の回帰なんてもんじゃないですよ」と訴える²¹。『風の歌を聴け』をはじめとする大森の初期作品においてノスタルジアが顕著に表れるのとは対照的に、山川が実験的な映像表現において重視していたのは先行する世代の日本映画への反逆であった。それは村上春樹が当時日本文学に対して示した態度とも共通する部分があったといえよう。

山川と村上の作品に見られる反逆性は、日本の歴史的なコンテクストに照らして理解することも可能である。加藤典洋は村上の「パン屋」二部作を1960年代の学生運動の時代の熱気が退潮していく一方で、高度経済成長期からの産業形態の変化とともに経済的な安定と消費社会の到来にいたる1970年代から1980年代にかけての日本社会のアレゴリーとして読解する。二人の若者が企てたパンの強奪という「社会への反逆」は、ワグナーの音楽を聴く「モニター行為」の対価としてパンを得るという「新しい労働の形態」にすり替えられることで「立派な産業活動の一環」に取り込まれる²²。そのような「パン屋襲撃」の出来事ののち、社会の従順な成員になった主人公は「学生運動、若者の反乱の時代」という過去において「果されなかったこと」を回復するために、妻の先導のもとマクドナルドを襲うというのが「パン屋再襲撃」の主意である²³。加藤は、山川の映画が原作の寓意をくみ取ったアダプテーションとなっているとし、作中に登場する揚げパンやクロワッサンがもつ社会階層の象徴性を画面の三分割によって可視化させる演出が行われていることを示す²⁴。山川は村上とは8歳ほど年齢差があるものの、村上と同じサブカルチャーに属し、1970年代の社会的な変容を目にしてきた若者世代として同様の問題意識を共有していたと考えられる。

山川の二作品は後年、村上の映像化作品を取り上げた雑誌の特集記事のなかで「時代の先端を切り取っているが、それ故に途方もないスピードで風化していった」と否定的に紹介されている²⁵。それは、これらの作品における山川の映像表現が1980年初頭の日本の自主映画という時代のコンテクストのなかでこそ意味を持ちうるものだったことを示唆するものだろう。「村上の映画化作品としてうまくいったかどうかという観点から評価されるような作品ではないように思う。そうではなくそれらは、あの時代のサブカルチャーがもたらした感覚の変容とその中で村上春樹が果たした役割という視点から評価すべき」と初期の村上作品のアダプテーションについて語る長谷の論調に

²⁰ 山川直人／曳地信明「イマージュの生成そして／あるいは移動する軌跡、二本の線」、法政大学学生連盟事業委員会・出版広報センター／THEATER ZERO 編『パン屋襲撃 GAKKAN SPECIAL EDITION』法政大学学生連盟事業委員会・出版広報センター／THEATER ZERO、[1983年]、16頁。

²¹ 同。

²² 加藤典洋『村上春樹の短編を英語で読む 1979～2011』講談社、2011年、238-239頁。

²³ 同、256頁。

²⁴ 同、241-242頁。

²⁵ 菅原豪「映像化された村上世界」『SWITCH』28巻12号、2010年、56頁。

も同様の評価が見て取れる²⁶。ところが、山川のアダプテーションが歳月を経て古びた印象を与えるようになったのとは対照的に、村上の原作は本来のコンテクストを離れ、異なる言語や文化でアダプテーションが何度も繰り返されることになる。これまでに全世界で行われた「100パー」および「パン屋」のアダプテーションをすべて網羅することは困難をきわめるが、本稿では次節で述べる方法により可能な限り多くの映像化作品の確認と分析を試みた。

2 ユーザー生成コンテンツとしてのアダプテーション

中国語圏の映画学科等の学生によって翻案された「100パー」と「パン屋」に着目した鄒波の研究は、「100パー」と「パン屋」の国際的なアダプテーションを射程に入れた本稿の重要な先行研究である。鄒波はデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学論を援用し、中国語圏の学生映画におけるアダプテーションを世界文学としての村上作品の異文化圏における受容の一形態として把握する。アダプテーションにおける言語や舞台、物語の改変に「翻案者の主体性」を見出し、文章から文章という同じメディア間の翻訳よりもアダプテーションのほうが翻案者の主体的な介入や文化の影響がより大きいと鄒波は主張する²⁷。興味深いのは、鄒波が「youku（优酷）」「bilibili（哔哩哔哩）」「iQIYI（爱奇艺）」という中国の動画共有サイト三種類を調査対象とし、これらにアップロードされたアダプテーション作品を取り上げている点である。インターネット上の動画共有サイトは学生やアマチュアにとって自分たちの制作した映像を最も容易に公開できるプラットフォームの一つである。このことについて鄒波は「インターネットの技術の発展とともに、それらの作品はより広範囲にわたり、かつより短時間で視聴者が受容できるようになっている」と評価する一方で、文化を越境した作品の受容が「カオス的な様相」を呈していると結論づけている²⁸。

本稿では、動画共有サイトにおける受容を単に「カオス的な様相」として見るのではなく、プラットフォームを提供するシステムとユーザーの交渉の場であると仮定する。動画共有サイト上で公開されるアダプテーションをユーザー生成コンテンツとして捉えた場合、「翻案者の主体性」はシステムの側にあらかじめ制限される側面もあるのではないかと問う。この問いは、レフ・マノヴィッチがソーシャル・メディアで公開されるアニメ・ミュージック・ビデオを例に提示した、21世紀に入って格段に普及したユーザー生成コンテンツという現象がどの程度家電産業や商業メディアによって動かされているかという問いを文学のアダプテーションという観点から検証するものである²⁹。マノヴィッチはミシェル・ド・セルトーが提唱した、組織や権力構造の側が用いる「戦略」(strategies)と、近代を生きる市民の側が日常生活において用いる「戦術」(tactics)という区別をデジタル時代のメディアに応用する³⁰。ユーザー生成コンテンツを作るさい、ユーザーは無からすべてを生み出すのではなく、プロが作ったテンプレートをもとに作成することが多い。アニメ・ミュージック・

²⁶ 長谷「サブカルチャーとしての村上春樹と自主映画」92頁。

²⁷ 鄒波「中国の学生映画に移動した村上春樹文学」、330頁。

²⁸ 同、349-350頁。

²⁹ Lev Manovich, “The Practice of Everyday (Media) Life: From Mass Consumption to Mass Cultural Production?” *Critical Inquiry*, no. 35, 2009, p. 321.

³⁰ レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語 デジタル時代のアート、デザイン、映画』堀潤之訳、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2023年、552頁。

ビデオの場合は、大半が音楽も映像も既存の商業メディアにユーザーが独自の編集を加えたものである。ここではテンプレートの提供が「戦略」にあたり、ユーザーが独自にカスタマイズする編集の自由度が「戦術」に相当する。商業メディアはユーザーの「戦術」を見越してカスタマイズを前提としたテンプレートや環境を提供するという「戦略」を展開する。そしてユーザー生成コンテンツの増加により動画共有サイトは広告収入の拡大や利用者データの取得という利益を得る。つまりユーザーの「戦術」を「戦略」に積極的に取り込んできたというのがマノヴィッチの主張である³¹。

アダプテーションにおいては、翻案のもととなる物語こそが翻案者にとっての典型的なテンプレートであるといえる。映像制作者はそのテンプレートをもとに、物語の舞台や時代、言語、人物の国籍や性別、属性を改変したり、原作の物語や台詞の省略、独自の展開の追加を行ったりする。原作に加えられるこれらの変更は、予算や撮影期間をはじめとする制作上の都合、映像制作者が属する文化圏への物語の再文脈化、映像制作者自身の解釈や主張の表現などさまざまな目的をもつ。だが、いずれも映像制作者が想定するターゲット層の観客に向けて自分の映像を届けるための「戦術」として把握できる。一方、動画共有サイトをはじめ商業メディア側の「戦略」は、ユーザーにより多くの映像を作成、公開させ、より多くのユーザー間のコミュニケーションを創出することを目的とする。ユーザーがサイト上でより長時間過ごして自作のコンテンツを注ぎ込むことで、動画共有サイトは広告収入や他社への利用データの販売を通して収益を上げることができる³²。また、ここでいう商業メディアには動画共有サイトやサイト上に広告を出す企業のみならず、原作者の村上および出版社も含まれる。ユーザーによる許諾を得ていないアダプテーションの制作を黙認し、オンライン上での公開を継続させるという「戦略」により、原作小説のより広い周知という宣伝効果が期待できるためだ。

オンラインで公開されている「100パー」および「パン屋」のアダプテーションをなるべく多く確認するために、本稿では日本語のほか英語をはじめとする十か国語において三作品がどのようなタイトルで翻訳されているかを調べた（付録1）。十か国語の外国語の選択は、ローマ字アルファベットを使用する西欧語が多いが、あくまで恣意的なものである。付録1-1が示すとおり、「100パー」では日本語においても初出および単行本『カンガルー日和』（1983年）収録の版と1991年の『村上春樹全作品』収録版とでは冒頭の数字の表記に異同があり、「パン屋襲撃」「パン屋再襲撃」は二種類異なるタイトルをもつバージョンが存在する。翻訳においても、付録1-2の英語版「100パー」の場合のように、異なる翻訳者による翻訳が出版されることにより、タイトルに異同が生じることがある。

付録1で各作品の異同と外国語タイトルを確認したうえで、続いて「4月のある晴れた朝（四月のある晴れた朝）」「100パーセントの女の子（100%の女の子）」「パン屋襲撃」「パン屋再襲撃」といった比較的固有性の高い文字列の組み合わせを選び出し、これらの文字列に相当する各言語のタイトルに相当する部分をグーグルの検索エンジンおよび動画共有サイトのYouTubeとVimeoで検索した。その結果によって見つかった映像化作品の一覧が付録2および付録3である。なお、これ

³¹ Manovich, “The Practice of Everyday (Media) Life,” pp. 325-326.

³² Ibid., p. 325.

らには実際の検索結果のほかに、映像はオンライン上で公開されていないもののグーグル検索の結果で情報を確認できたもの、さらに検索語句の文字列を含んでいないものの YouTube や Vimeo の関連映像として表示されたものも少数含まれる。映画祭などでの上映実績が確認できるものは公開年を示し、不明の作品は YouTube ないし Vimeo での公開日の順に並べた。URL は 2023 年 12 月 9 日閲覧時点で有効のものである。ただし、付録 1-10 の繁体字／簡体字中国語の翻訳タイトルに関しては、鄒波の調査との重複を避けるために検索結果は一覧から除外した。

以上のような方法で映像化作品の検索を試みたが、もちろんこれは網羅的な方法とはいえない。私自身の外国語能力の限界もあって見逃している翻訳タイトルは存在するだろう。例えば、スペイン語の「100 パー」の翻訳には付録 1-3 で挙げた原題の直訳“Sobre el encuentro con una chica cien por cien perfecta en una soleada mañana del mes de abril”以外に“Por falta de palabras”（直訳：言葉がないため）というタイトルで出版されていると見られる。中南米と思われる複数のスペイン語映像化作品が“Por falta de palabras”というタイトルで公開されているほか、オンライン上でもこのタイトルで「100 パー」に言及しているサイトが多いが、訳者や出版社、出版地などの書誌情報は私自身のスペイン語能力の不足により確認できなかった。他の言語でも同様の見逃しがある可能性は十分にある。また、映像化作品の検索結果についても、アルゴリズム等の問題によりサイト上のすべての映像化作品が結果として表示されていない可能性も考えられる。そのため、次節以降は可能な範囲内で映像化作品の確認と傾向の分析を行ったパイロット的研究として読んでもらいたい。

3 戦術としての英語

言語の面で分類すると、「100 パー」は 54 作のうち 33 作、「パン屋」22 作のうち 10 作が英語作品である。これにはアメリカやイギリスなど英語を第一言語として話す人口が多くを占める国だけでなく、シンガポールやフィリピンのように公用語（第二言語）として英語が採用されている国、そして中国や日本など英語が外国語である国で作られた作品も含まれる。デイヴィッド・クリスタルは、英語を第一言語として話す人口と公用語などで国民が第二言語として学ぶ国の人口についてそれぞれ 7 億 5000 万人、外国語として英語を学ぶ国や地域の人口をほぼ同数の 7 億 5000 万人と概算し、世界で英語をある程度使える人口はおおよそ 15 億人だと推定している³³。英語でのアダプテーションは字幕翻訳などの手間を省いて効率的に多くの視聴者に訴求するための戦術として効果的だといえる。

「100 パー」の英訳については、村上作品の主要な英訳者の一人であるジェイ・ルービンによる“On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning”というタイトルの 1992 年の英訳、そしてそれに先立つ 1991 年に日本文学のアンソロジーに収録されたさいの“On Meeting My 100 Percent Woman One Fine April Morning”という二種類の英訳版があるが、今回確認した英語版アダプテーションのすべてがルービンの訳を反映したものである。1997 年の短編映画『100%』のようにタイトルが異なる場合でも、会話やヴォイスオーバーの内容でルービンの訳文が踏まえられている。こ

³³ David Crystal, *English as a Global Language*, 2nd edition, Cambridge University Press, 2003, pp. 68-69.

れに対し、英語圏では「パン屋再襲撃」の訳はあるものの、「パン屋襲撃」は2023年時点でまだ公式には英訳が出版されていない。そのためか、「パン屋」の英語版アダプテーションはすべて「再襲撃」を翻案した作品である。このことから、アダプテーションの前提としてその言語での翻訳が出版されていることが重要であることがうかがえる。

ただし、英語の映像化作品の多さには検索を行った私の言語的な限界および検索方法における英語圏の文化へのバイアスが反映されていることも認めないといけない。YouTubeもVimeoもアメリカで生まれた動画共有サイトであり、同じくアメリカ生まれの検索エンジンであるグーグルもよりアクセス数の多い英語圏の検索結果を優先的に表示する可能性が高い。日本におけるニコニコ動画などに相当する各地域での独自の動画共有サイトは、グーグル検索に表示されなかったぶんは取りこぼしてしまっている。また、Vimeoは英語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の7言語、YouTubeはさらに多い29言語でサービスを提供しているが、戦略として選ばれたこれらの言語以外の言語の話者はYouTubeやVimeoをプラットフォームとして利用せずに別の場所で作品を公開している可能性もある。

しかし、英語圏の人間や英語圏以外でもYouTubeやVimeoをよく利用する視聴者を想定した戦術として翻案者が英語を使用する例が見られる。例えば、2017年に公開された「パン屋襲撃」のアダプテーションである*Bakery Attack*はインドのプネーにあるインド映画テレビ研究所の学生が作ったと見られる作品であるが、全編ヒンディー語であるにもかかわらず英語のタイトルが与えられている。ヒンディー語の作品を想定していなかった私がこの作品の存在を知って視聴できたのは、英語のタイトルがあったからこそである。英語字幕を作成する資金や技術がなくても、タイトルや説明に英語を用いる、あるいは英語のキーワードをハッシュタグをつけて説明に入れるだけで、より多くの人間を潜在的な視聴者層に含めることが可能になる。

このようなかたちでの英語の使用は、*A Girl, She Is 100 Percent*という英語タイトルが冒頭で表示され、エンド・クレジットもすべて英語で表示された山川直人の『100%の女の子』のときから見ることができた。山川が国際映画祭への出品を視野に入れていたことは作品公開の翌年の1984年からエディンバラ、ロンドンの映画祭に出品されていることからわかるが、当時の英語の使用は山川が単に国外の観客を視野に入れていたということだけを意味するわけではない。むしろ、村上の小説においてアメリカ文学の影響が指摘され、先行する日本文学とは異質の作家として文壇に登場したという、国内における村上文学の位置づけが関わっているだろう。英語を用いた外国映画風の演出は、当時の日本の観客が村上の文学に対して抱くイメージに合致するものだった。このような村上の「日本文学の伝統から完全にふきった、外国風の作家」というイメージは、村上文学の海外での受容に焦点を当てた『世界は村上春樹をどう読むか』のなかで沼野充義が指摘していた点である³⁴。日本という異文化圏の物語としてではなく、読者にとっての身近な世界の出来事として受け入れられる物語という文化的に一見ニュートラルな特徴は、村上作品が多様な地域で映像制作のテンプレートとなるうえで適していたといえる。

³⁴ 柴田元幸／沼野充義／藤井省三／四方田犬彦編『世界は村上春樹をどう読むか』文藝春秋、2006年、321頁。

だが、映像化作品のリストに目を向けると、文化的な普遍性とは異なる様相も見えてくる。作品の中には海外の大学の映像制作関連の学科や映画学校での課題であることが明記されているものが少なくないが、それらの作品のいくつかは中華圏や韓国をはじめアジア系の監督によって作られている。韓国出身の Jon Ougie Pak によってニューヨークの School of Visual Arts の課題として撮られた 2004 年の *100% Perfect Girl* や、カリフォルニア大学デーヴィス校の学生 Vincent Trinh による作品 *Seeing the 100% Perfect Girl*、カリフォルニア大学アーヴァイン校の台湾出身の学生が 2012 年に制作した *On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning* などがそれにあたる。これらの場合、留学生であるアジア系学生が村上の小説をアダプテーションの原作として用いることには、自分と同じアジア文化圏に属する文学作品として親しみを抱いていたためであると推測することが可能である。つまり、翻訳がグローバルに流通し、英語圏においても知られている普遍的な物語であると同時に、アジアで生まれた作品であるという地域的に固有のアイデンティティーが原作の選択において重視されたと考えられる。

また、作品を公開するプラットフォームおよび言語の選択自体が表現上の意識的な戦術であることがわかる場合もある。「100パー」が主題とする男女の運命的な出会いは異性愛ロマンスの極北といっても過言ではないが、原作の男性主人公の 100パーセントの女性との出会いを女性同士の恋愛の物語に改変したアダプテーションは二本あった。そのうち、2022年に公開された Abby Zhu 監督の *On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning* は上海で撮影されており、登場人物も全員中国人である。本来であれば英語である必然性に欠ける状況設定であるにもかかわらず、作中のダイアログでは一貫してジェイ・ルービンの英訳にもとづく英語が話される。また、中国国内では VPN（仮想プライベートネットワーク）を経由しない限り見られない YouTube で作品を公開している点についても、そもそも国内の観客を想定していない、あるいは国内の動画共有サイトで作品が検閲の対象となり削除されることへの懸念があると推測できる。最初から中国国外の視聴者を想定して作られた作品であることがうかがえる。単により幅広い視聴者層を獲得する目的だけでなく、国内では表現しにくい内容を国外に向けて発信するために英語が用いられている例であろう。

4 アダプテーションにおける解釈の幅

鄒波のようにアダプテーションにおける「翻案者の主体性」に着目する場合、アダプテーションを先行作品の受容の一形態として位置づけ、原作からの改変を翻案者による解釈として捉えていることが前提となる。実際、リンダ・ハッチオンはアダプテーションに「特定の芸術作品への広範で意図的な公表された再訪」という広い定義を与えつつも³⁵、「形ある物体あるいはプロダクト」「製作のプロセス」「受容のプロセス」という三つの側面から以下の特徴を挙げている³⁶。

³⁵ リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』片渕悦久／鴨川啓信／武田雅史訳、晃洋書房、2012年、210頁。

³⁶ 同、10-11頁。強調は原文どおり。

- ひとつ、もしくは複数の認識可能な別作品の承認された置換 (An acknowledged transposition of a recognizable other work or works)
- 私的使用／回収という創造的かつ解釈的行為 (A creative *and* interpretive act of appropriation/salvaging)
- 翻案元作品との広範な間テクスト的繋がり (An extended intertextual engagement with the adapted work)

以上のうち、製作と受容のプロセスに関する第二、第三の特徴が解釈の問題を示している。製作に関する第二の特徴は、「創造的かつ解釈的」に原作を別のコンテキストへすくいあげる行為である。「私的使用／回収」という和訳では誤解を招くが、アダプテーションが商業的かプライベートな利用目的かという点に関係がなく、翻案者が原作を解釈したうえで、みずから応答するプロセスである。また、第三の特徴では原作と間テクスト的な関係を生み出す行為としてアダプテーションが把握されている。重ね書きされたテキストの下に元のテキストがうっすら読み取れるパリンペストの比喩をハッチオンが用いるのは、翻案作品を通して原作が意識される関係性が念頭に置かれているためである³⁷。

もちろん、「100パー」「パン屋」アダプテーションもそれぞれの翻案者が村上の原作を読み、その解釈を映像として表現した作品として見ることができる。2014年公開されている韓国語作品《빵가게 습격 재해석》(直訳：パン屋襲撃再解釈)は文字どおり、原作の主題を韓国のコンテキストのなかで「再解釈」する例である。空腹の男性が、台の上にラジオとパンとカードが置かれているのを見つける。ドクロと交差した骨のイラストが描かれたカードを裏返すと、「注意！ この文を読んでいる同志へ。パンを食べる必要があるなら、5000ウォン出すかラジオを聞いてください」と書いてある。ラジオをつけるとワグナーの音楽に混じって2014年新年の祝賀行事に出席する金正恩を称えるプロパガンダ放送が聞こえてくる。「パン屋襲撃」でパン屋の主人が若者たちに提案する、ワグナーを聴いてパンをもらうという取引を踏まえつつ、ヒットラー・ユーゲントの比喩やワグナーと関連づけられたナチス・ドイツを金正恩の独裁政権下にある北朝鮮に置き換えている。金を払ってパンを買うかラジオを聴くかというカードの提案は、資本主義経済の基本である売買取引を行うか、共産主義国家である北朝鮮のプロパガンダに耳を貸すかという二者択一を象徴するものである。この作品では原作の物語が韓国と北朝鮮の政治的なコンテキストに再文脈化されるとともに、襲撃行為が体现する学生運動の時代の若者の反逆精神がワグナーを聴く報酬としてパンを得るという消費社会下の産業活動に取り込まれるという原作の寓意が逆転させられ、ラジオを聴く行為と共産主義が関連づけられている。このように寓意の再文脈化まで行っている作品は付録2、3のなかでは少数派であるが、物語の舞台や登場人物の国籍、話される言語を翻案者の側に合わせて改変する程度の再文脈化であれば、大半の作品で見受けられる。

文化的な再文脈化という意味での解釈とは別に、原作がもつ曖昧性を解釈する受容(読解)プロセスとしてアダプテーションが行われている例もある。本稿で取り上げる村上の三作のうち、「パ

³⁷ 同、11頁。

ン屋再襲撃」は登場人物の性別に関して決定的な曖昧性を有する作品として知られている。石倉美智子が示すとおり、「パン屋再襲撃」のなかで語られる過去の襲撃の話のなかで、「相棒」の性別について「僕」は言葉を濁す。だからこそ、『妻』のみならず読者もまた、『相棒』が女性だったのではないかと推測することは、十分あり得ること」と石倉は指摘する³⁸。映像化作品においても、タイ語作品 *The Second Bakery Attack* คำสาปร้านเบเกอรี่ (監督名不明、2014年、タイ語直訳「パン屋の呪い」とポーランド語作品 *Gorzko!* (Michał Wawrzeccki 監督、2014年、タイトルの直訳「苦い!」は、ポーランドの結婚式で新婚夫婦にキスをするよう促す掛け声) の二作が明示的に過去の「相棒」を女性として描いている。また、英語作品の *The Second Bakery Attack* (Zhenzhong Zhu 監督、2016年) では「相棒」は会話のなかで言及されるのみであるものの、女性として解釈可能な作品である。小島基洋は人称代名詞が多用される英訳では村上のテキストがもつこの曖昧性が損なわれると示唆しているが³⁹、Zhu の作品では“*So, this friend of yours, what’s he doing now?*”⁴⁰ (それで、そのあなたの相棒は今どうしているの?) など英訳で「相棒」に男性人称代名詞が用いられる箇所を省略している。さらに、ダイアログの内容は原作どおりに展開するものの、ルービンの訳文を離れたオリジナルの表現を多く採用し、ルービン訳では“*Well, I’m your best friend now, aren’t I?*”⁴¹ (だって今では私があなたの相棒なんだもの) となる箇所を“*I’m your wife. I’m your partner in crime, your best friend*” (私はあなたの妻よ。共犯者で親友なの) と畳みかける強調表現を用いることで、「相棒」が「僕」のかつての女性の恋人であると察したうえで妻が発言していることが視聴者に伝わるようになっていく。原作の字句を離れたオリジナルのダイアログは、回想シーンで視覚的に「相棒」を登場させて解釈を限定することなく、翻案者の解釈を視聴者に示唆する戦術であるといえる。

一方、アダプテーションのなかには翻訳者による解釈が限定的な作品も含まれる。2011年3月に公開された *On Seeing the 100% Perfect Girl Part 1* (監督名不明) は、コンピュータで作成されたアニメーションの人物が英訳の文章の一部を読み上げるという内容で、ビデオ形式のオーディオブックや朗読動画にきわめて近いものになっている。付録2、3のリストからは除外しているものの、YouTube には小説の文章を読み上げる音声に静止画ないし文章の字幕を組み合わせた動画が膨大に投稿されている。村上の原作あるいは翻訳の文章をそのままヴォイスオーバーとして使うのは、山川の時から見られた村上作品のアダプテーションの特徴でもあるが、オーディオブックのような動画もアダプテーションに含めるとすれば、リストは長大なものになるはずである。ハッチオンはアダプテーションを連続体としてとらえ、アダプテーションのプロトタイプとして「文学を翻案した映画」⁴²の例を数多く挙げる一方で、演技や視覚的な要素が解釈として加わる戯曲とその公演の関係や、リズム、テンポなどの音声的要素が解釈と見なされるラジオ劇などもアダプテーションに含めて俎上に載せている⁴³。朗読動画は、文芸作品の翻訳や管弦楽曲のピアノ演奏曲への編曲の例

³⁸ 石倉美智子「夫婦の運命I—『パン屋再襲撃』論—」、栗坪良樹／柘植光彦編『村上春樹スタディーズ02』若草書房、1999年、205頁。

³⁹ 小島「一九八五年の『相棒』とは誰だったのか」77-78頁。

⁴⁰ Haruki Murakami, *The Elephant Vanishes*, trans. Jay Rubin, Alfred A. Knopf, 1993, p. 41.

⁴¹ *Ibid.*, p. 42.

⁴² ハッチオン『アダプテーションの理論』4頁。

⁴³ 同、52頁。

と同様に「先行作品に忠実であることが、たとえ実質的には不可能であっても、理論的な理想とされる状態」であると考えられ、アダプテーションの周縁例として説明することができるだろう。

私のリストは鄒波に倣って「翻訳者の主体性」を意識している部分があるため、恣意的な判断が介入してしまうことは否めない。例えば、英訳の文章の朗読にアニメーションのついた Mia Deng による 2012 年の動画 *Upon Seeing the 100% Perfect Girl* をリストに含めているものの、韓国語訳の文章の朗読に映像が伴う韓国の 책그림 (Draw the Book) というアカウントに投稿された動画 《《당신의 사랑은 몇 퍼센트인가요?》》(直訳: あなたの愛は何パーセントですか?) を外している⁴⁴。前者が手書きのコンピュータ・アニメーション、後者がコンピュータ・アニメーションとストック画像の組み合わせという違いはあれ、どちらも映像が文章の内容を具体化し、イラストレーションを与える目的で使用されている点では同じである。私が前者をリストに含め、後者を外した根拠は、前者では原作にある「たいして綺麗な女の子ではない。素敵な服を着ているわけでもない」⁴⁵といった現在の観点からルッキズムにもとづく評価ととられかねない部分がカットされている点である。翻案者による省略に批評的な解釈が見い出されると判断したのだ。しかし、映像がつくだけでも理論的には解釈であるとすることができるため、あまり説得力のある線引きとはいえないだろう。もちろん、動画共有サイトをはじめ商業メディア側にとってはどこまでがアダプテーションでどこからがそうでないかという点は重要ではない。11 年間で 2198 回視聴された Mia Deng の動画よりも、Draw the Book による動画のほうが 7 年間で 5 万 1000 回視聴されているうえに他ユーザーからのコメントというユーザー間のコミュニケーションを創発している点で動画共有サイトにとって利するところが大きいと考えられる。

おわりに

本論文ではアダプテーションを作成し、公開する翻案者＝動画共有サイトのユーザーによるさまざまな戦術を検討したが、最後に商業メディア側の戦略としての黙認について考えておきたい。付録 2、3 を見ればわかるように、村上が「100 パー」に関して原作提供を停止していることを示した 2010 年以降も YouTube や Vimeo には同作品の映像作品が数多くアップロードされ続けている。リスト上の作品すべてが原作者の許諾を得ているとは考えにくい、少なくとも村上側は無許可のアダプテーションや朗読動画に対して取り下げなどの要求を行っているようには見えない。また、原作の他にも YouTube ではビデオ内で使用される音楽が第三者のものであるかどうかを自動検出している。音楽に第三者の著作物が使用されていると検出された場合、権利侵害の申し立てがないものに関しては音楽のクレジットが自動的に付与される。このクレジットは権利者の明記であると同時に、YouTube の音楽チャンネルに視聴者を誘導してサイト上のさらなるエンゲージメントを促す戦略としての側面も持っている。アダプテーション作品のなかでも、2012 年に公開された *On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning* (Shoko Chou 監督) で使用されるザ・ビート

⁴⁴ 책그림 《당신의 사랑은 몇 퍼센트인가요? (feat. 100 퍼센트의여자아이) | 심리 | 책그림》YouTube、2016 年 8 月 7 日、<https://www.youtube.com/watch?v=TjLwu5TOVO8>

⁴⁵ 村上『カンガルー日和』19 頁。

ルズの「ノルウェーの森」（1965年）など使用権に関して敏感な楽曲が使用されている例は複数見られる。それらの作品が2023年12月の現時点において自動検出で付与されるクレジットもないままなのは、権利者の許諾を得て使用しているか、たまたま見つかっていない黙認状態であると考えられる。たまたま見つかっていないだけの作品や検出されてはいるものの権利者からの侵害の申立てがないものについては、いつ音声の消去や動画の公開停止などの処分を受けるかは商業メディアや動画共有サイト側しだいということになる。

ジョルジョ・アガンベンが政治的権力について論じるように、主権者は法の統治からの例外状態におかれ、生物学的な生を生きているだけの状態にされた「剥き出しの生」を生み出すことによって権力を維持しており、その生が「保存され保護されるのはあくまでも主権者の（あるいは法律の）生殺与奪の権利に服するようになるかぎりにおいてのこと」である⁴⁶。実際に動画の公開やアカウント停止処分が行使されるかどうかにかかわらず、黙認状態におかれた動画は商業メディアに生殺与奪の権利を譲り渡し、「剥き出しの生」と同様の状態におかれているといえよう。表現の手段としてアダプテーションを自由に行っているように思われる一方で、商業メディアの権力のもとに支配された状態なのである。そして、原作者である村上の小説はユーザー生成コンテンツにとって文化を越えて使用可能なテンプレートの役割を担うこと、そしてコンテンツ生成に対する黙認状態を維持することの二点により、商業メディアの戦略の一翼として機能している。村上は1970年代末にメインストリームの文化から外れたサブカルチャーの領域から登場したが、世界文学として認識され各地でアダプテーションが作られるようになると商業メディアとして機能するようになったと結論づけることができるだろう。

【付記】

本稿は、日本映画学会第19回大会における口頭発表「反復される物語——村上春樹「パン屋（再）襲撃」と「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」の映画化をめぐる」にもとづく。研究に際しては、科研費若手研究「ポスト撮影所時代の日本映画における村上春樹映像化作品の位置づけに関する基礎研究」（22K13025）ならびに基盤研究C「村上春樹文学アダプテーションに関する総合的研究—「世界文学」という視座から—」（22K00320）の助成を受けた。

【付録1】原作および翻訳のタイトル

1 日本語

「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」1981年。『カンガルー日

⁴⁶ ジョルジョ・アガンベン『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』高桑和巳訳、以文社、2007年、348頁。

和』講談社文庫、1986年、17-26頁。

「四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」『村上春樹全作品1979～1989⑤ 短篇集II』講談社、1991年、23-30頁。

「パン屋襲撃」『早稲田文学』65号、1981年、40-43頁。

「パン」『夢で会いましょう』冬樹社、1981年、155-161頁。

『パン屋を襲う』新潮社、2013年。

「パン屋再襲撃」『パン屋再襲撃』文春文庫、1989年、9-35頁。

「再びパン屋を襲う」『パン屋を襲う』25-74頁。

2 英語

“On Meeting My 100 Percent Woman One Fine April Morning.” Trans. Kevin Flanagan and Tamotsu Omi. *New Japanese Voices: The Best Contemporary Fiction from Japan*. Ed. Helen Mitsios. The Atlantic Monthly Press, 1991, pp. 23-28.

“On Seeing the 100 Perfect Girl One Beautiful April Morning.” Trans. Jay Rubin. *The Elephant Vanishes*. Alfred A. Knopf, 1993, pp. 67-72.

“The Second Bakery Attack.” Trans. Jay Rubin. 1992. *The Elephant Vanishes*. Alfred A. Knopf, 1993, pp. 35-50.

3 スペイン語

“Sobre el encuentro con una chica cien por cien perfecta en una soleada mañana del mes de abril.” Trans. Cordobés González and Yoko Ogihara. *El elefante desaparece*. Tusquets Editores, 2016, pp. 75-81.

“Nuevo ataque a la panadería.” *El elefante desaparece*, pp. 41-56.

Asalto a la panaderías. Trans. Lourdes Porta, 2015.

4 ドイツ語

“Wie ich eines schönen Morgens im April das 100%ige Mädchen sah.” Trans. Nora Bierich. *Wie ich eines schönen Morgens im April das 100%ige Mädchen sah*. BTB Taschenbuch, 2008 [1996], pp. 9-13.

“Der Bäckereiüberfall.” Trans. Nora Bierich. *Der Elefant verschwindet*. BTB Taschenbuch, 2009 [1995], pp. 45-49.

“Der zweite Bäckereiüberfall.” *Der Elefant verschwindet*, pp. 50-66.

Die Bäckereiüberfälle. Trans. Damian Larens. DuMont Buchverlag Gruppe, 2012.

5 フランス語

«À propos de ma rencontre avec la fille cent pour cent parfaite par un beau matin d’avril.» Trans. Corinne Atlan. 1998. *L’éléphant s’évapore*. Belfond, 2008, pp. 87-92.

«La seconde attaque de boulangerie.» Trans. Corinne Atlan. 1998. *L’éléphant s’évapore*. Belfond, 2008, pp.

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

47-67.

Les attaques de la boulangerie. Trans. Hélène Morita and Corinne Atlan. Belfond, 2012.

6 ロシア語

〈О встрече со стопроцентной девушкой погожим апрельским утром.〉 Trans. Sergei Logachev. «Хороший день для кенгуру.» Eksmo, 2006, pp. 13-20.

〈Повторное нападение на булочную.〉 Trans. E. Ryabova. «Исчезновение слона.» Eksmo, 2009, pp. 5-26.

7 ポルトガル語

“Ao ver a rapariga cem por cento perfeita numa bela manhã de abril.” Trans. Maria João Lourenço. *O elefante evapora-se*. Casa das Letras, 2010.

“Sobre a garota cem por cento perfeita que encontrei em uma manhã ensolarada de abril.” Trans. Lica Hashimoto. *O elefante desaparece*. Alfaguara, 2018.

“O segundo assalto à padaria.” Trans. Maria João Lourenço. *O elefante evapora-se*. Casa das Letras, 2010.

Os assaltos à padaria. Trans. Maria João Lourenço. Casa das Letras, 2015.

8 イタリア語

“Vedendo una ragazza perfetta al 100% in una bella mattina di Aprile.” *L'elefante scomparso e altri racconti*. Trans. Antonietta Pastore. Baldini & Castoldi, 2001.

“Il secondo assalto a una panetteria.” *L'elefante scomparso e altri racconti*.

Gli assalti alle panetterie. Trans. Antonietta Pastore. Einaudi, 2016.

9 オランダ語

“Hoe ik op een zonnige ochtend in april mijn 100 procent perfecte meisje tegenkwam.” Trans. Luk Van Haute. *Kangoeroecorrespondentie*. Atlas Contact, 2012.

“De tweede broodjesroof.” *De olifant verdwijnt*. Trans. Jacques N. Westerhoven. Atlas Contact, 2008, pp. 49-71.

De broodjesroofverhalen. Trans. Jaques N. Westerhoven. Atlas Contact, 2012.

10 繁体字／簡体字中国語

“四月某個晴朗的早晨遇見 100%的女孩”《遇見 100%的女孩》賴明珠訳、時報文化出版、1995年、19-26頁。

“四月一个晴朗的早晨，遇到百分之百的女孩”《遇到百分之百的女孩》林少华訳、上海译文出版社、2021年 [初出2002年]、8-14頁。

《面包店再袭击》林少华訳、上海译文出版社、2008年。

《再襲面包店》林少华訳、上海译文出版社、2017年。

11 韓国語

- 〈4 월의 어느 맑은 아침에 100 퍼센트의 여자를 만나는 것에 대하여〉《4 월의 어느 맑은 아침에 100 퍼센트의 여자를 만나는 것에 대하여》임홍빈訳、문학사상、2009 年、19-28 頁。
《빵가게 재습격》권남희訳、창해、2000 年。
《빵가게를 습격하다》김난주訳、문학사상、2013 年。

【付録 2】「4 月のある晴れた朝に 100 パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品リスト（公開日順）

『100%の女の子』（山川直人監督、1983 年、11 分、日本語）

- 英語タイトルは *A Girl, She Is 100 Percent*。タイトルおよびエンド・クレジットは英語で表示される。現実のシーンはカラー、物語内物語は着色された白黒フィルムで表示される。
- シネマンブレインより日本版 DVD 発売（2001 年）

100%（Jed Gilchrist 翻案、1997 年、8 分 46 秒、英語）

- VHS をデジタル化してアップロードしたと見られる学生映画。ヴォイスオーバーは会話の一部として提示されており、軽妙な会話劇として構成されている。
- <https://www.youtube.com/watch?v=q9gLOLgv60c>（YouTube、2007 年 7 月 31 日）

Das 100%ige Mädchen（Steph Ketelhurt 監督、2002 年、3 分、ドイツ語）

- 出会いのシーンはなく、翌日の会話で説明されるのみ。ヴッパータールで撮影。Digital Cinematography: Was geschah wirklich in Wuppertal のセミナーワークショップで制作。
- <https://vimeo.com/8812337>（Vimeo、2010 年 1 月 18 日）

On a Winter's Day（Steven J. Quinn 監督、2003 年、8 分 41 秒、英語）

- スターリング大学の学内映画祭 AirTV で受賞。マッセルバラ（スコットランド）で撮影。
- <https://www.youtube.com/watch?v=yTE-4U-cN9s&t=18s>（YouTube、2006 年 9 月 23 日）

100% Perfect Girl（Jon Ougie Pak 監督、2004 年、4 分 40 秒、英語）

- School of Visual Arts の学生が制作。全編白黒。2006 年のトライベッカ映画祭に出品（Official Selection）。
- <https://www.youtube.com/watch?v=PqoHeEqgaFQ&t>（YouTube、2008 年 12 月 7 日）
- https://www.imdb.com/title/tt0823407/?ref_=fn_al_tt_2（IMDb）

The 100% Perfect Girl（Gregory Bourdeau 監督、2005 年、14 分 36 秒、英語）

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

- 秋のポートランドが舞台。Sonoma International Film Festival に出品。
- <https://vimeo.com/26350858>（Vimeo、2011年7月12日）
- https://www.imdb.com/title/tt1554529/releaseinfo/?ref_=tt_dt_rdat（IMDb）

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（Tom Flint 監督、2006年、30分43秒、英語／日本語）

On Seeing the 100% Perfect Girl（Hiroyuki Oda [小田浩之] 監督、2006年、25分35秒、日本語／英語）

- 共同監督により、2つの異なるバージョンを制作。両作とも物語内物語はセピア色で英語。
- <https://web.archive.org/web/20080719134330/http://en.con-can.com/watch/preview.php?id=20085028>（第5回 Con-Can ムービーフェスティバル [Wayback Machine]）

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（dontvu 監督、2007年6月6日、2分28秒、ダイアログなし）

- アジア系の男性が自転車に乗って道路を走る映像にジーン・セバークの写真が短く挿入される。音楽は、イェンス・レークマンの「I Saw Her in the Anti-War Demonstration」。
- <https://www.youtube.com/watch?v=2GT3DHNQY34>

On Seeing the 100% Perfect Girl（Dan Dredger 監督、2008年3月20日、3分39秒、英語）

- インタビュー形式。スクリーンの投影を活用。物語内物語はなし。
- <https://www.youtube.com/watch?v=IgkRsis3yGY>

100% Perfect Girl（Jonathan Jacob 監督、2008年4月27日、8分58秒、英語）

- School of Visual Arts New York City の初年度最終課題として制作。女性が主人公。
- <https://www.youtube.com/watch?v=CI-cm7wgpAI>

《遇見100%女孩（Meet 100% Perfect Girl）》（陳綺婷、何靜怡、紀欣欣監督、2008年9月30日、4分10秒、広東語）

- Storytelling の課題として作られた学生映画。物語内物語の部分はアニメーションで表現されている。
- <https://www.youtube.com/watch?v=eN8UsLVSf2k>

《100 퍼센트의 여자아이를 만나는 일에 관하여》（オ・セボム監督、2008年、8分5秒、韓国語）

- 主人公の画家になる夢への言及など青春映画として物語を膨らませている。物語内物語はなし。男友だちとの会話が中心となる。第9回全州国際映画祭に出品。

- <https://vimeo.com/48939266> (Vimeo、2012年9月6日)

100% Perfect Girl (Aaron Rotenberg 監督、2009年4月14日、4分16秒、英語)

- コロンビア大学バーナード・カレッジの学生が Campus Movie Fest のために制作。

- <https://www.youtube.com/watch?v=Bd0rryubYdo>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning (Tracy Ma 監督、2010年3月11日、1分7秒、英語)

- 作品の導入部分のヴォイスオーバーと短編集『象の消滅』のCM。York/Sheridan Joint Program in Design の課題。

- <https://vimeo.com/10098189>

Haruki Murakami 100% Perfect Girl ([Becky Fuller 監督]、2010年4月7日、3分56秒、英語)

- 大学生のグループ制作。イギリスで撮影。主人公が女性を荒々しく連れ去り、監禁する。ホラー映画風の演出。

- <https://www.youtube.com/watch?v=60B2r9qAMjc>

Por falta de palabras (Sam García Jiménez / J.M. Castelán 監督、2010年6月22日、9分55秒、スペイン語)

- スライドショー形式で静止画が表示される。監督の Sam García Jiménez はメキシコ、ベラクルス州のエウロ・イスパノアメリカナ大学出身。

- <https://www.youtube.com/watch?v=0jUSEWBRvvg>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful Sept. Morning (Helen Jian 監督、2010年12月21日、6分44秒、英語)

- ボストン大学卒業制作。監督は中国系。Jay Rubin の訳文をパラフレーズしてヴォイスオーバーに使用。主人公が女性を尾行する。

- <https://vimeo.com/18073707>

On Seeing the 100% Perfect Girl Part 1 (監督名不明、2011年3月27日、2分7秒、英語)

- コンピュータ・アニメーションの人物が英訳の文章を読み上げ、時おり効果音が挿入される。投稿者は Part 2 以降をアップロードしていない。

- <https://www.youtube.com/watch?v=cZ0RStTWrgQ>

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

Seeing the 100% Perfect Girl（Vincent Trinh 監督、2011年7月25日、12分9秒、英語）

- 7月に改変。原作の性的な言及を回避。カリフォルニア大学デーヴィス校の学生による制作。
- <https://www.youtube.com/watch?v=MmpEN3SXzBk>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（[David Leem 監督]、2012年3月6日、9分16秒、英語）

- 無言で並んで座る男性2名の後ろ姿にジェイ・ルービンの英訳文がテロップで表示される。物語の途中でビデオが終わる。
- <https://vimeo.com/38059448>

The 100% Perfect Girl（監督名不明、2012年5月13日、11分4秒、英語）

- 物語内物語のシーンを夜間撮影。カリフォルニアで撮影されたと推測される。
- <https://www.youtube.com/watch?v=NvPG1w0GWX4>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（Shoko Chou 監督、2012年7月20日、8分9秒、英語）

- ザ・ビートルズ「ノルウェーの森」を使用。カリフォルニア大学アーヴァイン校の制作クラスの課題。監督は台湾出身。
- <https://www.youtube.com/watch?v=YkdedKCdyUY>

Upon Seeing the 100% Perfect Girl（Mia Deng 監督、2012年7月31日、5分0秒、英語）

- アニメーション。
- <https://vimeo.com/46678661>

Das 100%ige Mädchen（Joris Noordermeer 監督、2012年10月13日、10分2秒、ドイツ語）

- エンド・クレジットは英語。英語字幕は Jay Rubin の訳文にもとづく。
- <https://vimeo.com/51345615>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（Y10 翻案、2013年7月2日、3分43秒、英語）

- 制服を着た男子生徒たちによって演じられるスキットを撮影した作品。教室の他の生徒の笑い声が合間に聴こえる。
- <https://www.youtube.com/watch?v=GjdxX4rKMc>

100% Perfect Girl: Sometimes Wait Is Not Worth It.（Roshan Suryaprakash Kingar 監督、2014年1月9日）

日、6分31秒、英語)

- インド、ナビムンバイで撮影。2011年に撮影、2014年に編集。
- <https://www.youtube.com/watch?v=4LG62SECjpc>

Chica 100 Perfecta (Brenda de la Rosa García / Fernando Carmona Mendoza 監督、2014年1月17日、2分32秒、スペイン語)

- 全編中間字幕を表示してサイレント映画を模した演出が行われる。
- <https://www.youtube.com/watch?v=3hBVEGm9LTw>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning ([Giannreli Vega 監督]、2014年7月9日、8分1秒、英語)

- 高校2年生の英語文学の授業の最終課題。原作どおりに「原宿」とヴォイスオーバーが説明。
- <https://www.youtube.com/watch?v=QKFUFROCvko>

perfect girl? ([Kai Niihara 監督]、2014年11月15日、1分25秒、ダイアログなし)

- 主人公は、100%だと思った相手の女性の顔にあざを見つけて、30%に評価を落とす。趣味の悪いパロディー作品。同じ内容が二度繰り返される。
- <https://vimeo.com/111916115>

Perfect Girl (Jacelle Bonus 監督、2014年11月30日、6分11秒、英語)

- フィリピン大学ディリマン校マス・コミュニケーション学部放送コミュニケーション学科のビデオグラフィーの授業の課題作品。
- <https://www.youtube.com/watch?v=p7D2AIYJSDU>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning (監督名不明、2014年12月3日、2分2秒、ダイアログなし)

- 米国ワシントン DC の Union 駅で撮影されたと見られる。音楽に乗せて東アジア系男性の顔の見えない女性との出会いが描かれる。
- <https://www.youtube.com/watch?v=AGBffB3QOqo>

On Seeing the 100% Perfect Girl (Laura Holliday 監督、2014年12月12日、1分24秒、英語)

- 前半のシーンの一つを映像化。出会いのシーンはなし。
- <https://vimeo.com/114320907>

The 100% Perfect Girl ([April Alfonso 監督]、2014年、3分、英語)

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

- Midterm (Group) Project（学期中間課題）。アニメーション。物語内物語の部分はロボットのアニメーションで表現される。
- <https://vimeo.com/230545341>（Vimeo、2017年8月21日）

Segundo（Julieta Amador 監督、2015年2月2日、2分59秒、ダイアログなし）

- カタルーニャ映画・音響映像学校。冒頭で *adaptación libre*（自由な翻案）と注記される。一度は原作どおりにただすれ違いが、男性が女性を引き留める。セリフは一切なし。
- <https://vimeo.com/118471621>

『4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて』（木俣恵太監督、2015年7月21日、22分5秒、日本語）

- ヴォイスオーバーなし。物語内物語の会話はオリジナル。
- <https://www.youtube.com/watch?v=1fQZN-8sKg8>

『普通すぎる女の子』（監督名不明、2015年9月29日、3分45秒、日本語）

- 女性は「渡邊とおる」宛の手紙を持つ。都はるみ「フレンド東京」ほか使用。物語内物語はなし。
- <https://vimeo.com/140828084>（“The 100% Perfect Girl”、Vimeo、2015年9月29日）

The 100% Perfect Girl（Johan Stavsjö 監督、2015年、14分、英語）

- ペース大学で制作された作品。Pace Student Film Festival で Best Narrative Feature と Best Director を受賞している。
- https://m.imdb.com/title/tt6023608/?ref_=tt_mv_desc（IMDb）

A 100% Perfect Girl（Zoe Dong 監督、2016年4月28日、6分51秒、英語）

- レズビアン女性が主人公。Smith College（オハイオ州）、Introduction to Video Production の最終課題。
- <https://vimeo.com/164631119>

The Perfect Man（Vicki Van Chau 監督、2016年9月28日、3分45秒、英語）

- Canada Council for the Arts の出資による、Herland Video Production Mentorship の課題作品。村上の短編から着想を得た（inspired）とある。女性目線で完璧な男性と道ですれ違った体験が描かれる。
- <https://vimeo.com/184646349>

Sobre encontrarse a la chica 100% perfecta una bella mañana de abril（Ernesto Galicia / Martín Flores 監

督、2016年11月20日、5分40秒、スペイン語)

- メキシコのベラクルスで撮影されたと見られる。
- <https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=g0KOPnDRkZg>

Comment par un beau matin d'avril (Alexandre De Bellefeuille 監督、2015年、9分、フランス語)

- ケベックの作品。Quebec Film Festival に出品された。
- <https://www.quebeccinema.ca/films/comment-par-un-beau-matin-davril>

Mi chica 100% en una mañana de Abril (Ding Yan Yun 監督、2017年5月15日、3分32秒、スペイン語)

- 監督は劇中の女性の役も演じている。坂本龍一の「Tokyo Story」が使用される。
- <https://vimeo.com/217592856>

Zweifel (Jochen Haussecker 監督、2017年11月21日、4分34秒、ドイツ語)

- 人形劇。
- <https://vimeo.com/243890491>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning ([Jordan Lee 監督]、2018年3月29日、1分59秒、英語)

- 主人公を演じる中国系の少年 Jordan が中心となり、学校の課題として制作したと見られる作品。“A 100% perfect girl doesn't guarantee a 100% perfect ending.” (100%の女の子は100%の完璧なエンディングを保証しない) という教訓めいたメッセージが最後に表示される。
- <https://www.youtube.com/watch?v=AXh0R2Xk2jQ>

Sobre encontrarse a la chica 100% perfecta una bella mañana de abril (Linda Esmeralda Uribe Barrón 監督、2018年11月29日、8分47秒、スペイン語)

- 全編白黒。
- <https://www.youtube.com/watch?v=y68RwiRu744>

On Seeing 100% Perfect Girl (JT Production 制作、2019年5月24日、3分50秒、英語)

- バーミンガム・メトロポリタン大学 James Watt College の学生によって英国バーミンガムの市街地で撮影されたと見られる作品。
- <https://www.youtube.com/watch?v=J1Oc2lTxR9g>

Por falta de palabras (Giovanny Sepúlveda 監督、2019年12月10日、8分37秒、スペイン語)

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

- メキシコの作品。主人公の友人を幻影として描く、クラスメイトの女性に無理やりキスをして責められるなど、オリジナルの展開が盛り込まれている。
- <https://www.youtube.com/watch?v=YslPUWM4ZSw>

MV 'On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning'（監督名不明、2021年2月26日、4分30秒、英語）

- タイで制作されたとみられる。主人公が夢の中で100%の女の子と結ばれるシーンでは、タイの歌手 Danupol Kaewarn が歌う懐メロ「ตายทั้งเป็นก้อรอด」（生きたまま死ぬ）が挿入される。
- <https://www.youtube.com/watch?v=FDGYTyS3pyY>

«СТОПРОЦЕНТНАЯ ДЕВУШКА»（Azat Khakimov / Alexander Kostylev 監督、2021年3月14日、9分37秒、ロシア語）

- 1場面でも物語が完結する。Khakimov 監督はカザフスタンをベースに活動している。
- <https://www.youtube.com/watch?v=YTQGa2Swx48>

After Haruki Murakami's Short Story On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（Shoki Lin 監督、2021年7月13日、9分22秒、英語）

- ヴァイオリンとピアノ演奏にヴォイスオーバー付きのアニメーションが伴う。National Arts Council Singapore's Digital Presentation Grant の助成を受ける。
- <https://www.youtube.com/watch?v=awXRIJdQIJY>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（John Caudill 監督、2021年10月1日、2分6秒、英語）

- ノースカロライナ大学人文学部の学生による制作。登場人物たちはマスク着用。全編白黒。物語内物語はなし。
- <https://www.youtube.com/watch?v=Y7HsxsHevRc>

The 100% Perfect Girl（Ada Hu 監督、2021年10月23日、13分9秒、英語）

- 上海市で撮影。エンド・クレジット後にビートルズの「ノルウェーの森」をサウンドトラックにした「パン屋再襲撃」の予告あり。
- <https://www.youtube.com/watch?v=jWKG9txzEKA>

On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning（Abby Zhu 監督、2022年11月22日、10分14秒、英語）

- 上海市で撮影。レズビアン女性の物語に改変されている。デートのシーンでは韓国ドラマ『トッケビ〜君がくれた愛しい日々〜』（2016年）でも使用された Eddy Kim の《이쁘다니까》が使用されている。
- <https://vimeo.com/769773516>

【付録3】「パン屋襲撃」「パン屋再襲撃」映像化作品リスト（公開日順）

『パン屋襲撃』（山川直人監督、1982年、16分、日本語）

- ヴォイスオーバーおよびセリフの大半は原作どおりに展開する。場面外のショットや中間字幕の挿入により、ヴォイスオーバーの例示や新しい意味の加味を行う。“Attack on a Bakery”の題でメルボルン国際映画祭（ベストフィルム賞ほか受賞）など海外の映画祭に出品。
- シネマンブレインより日本版 DVD 発売（2001年）

The Second Bakery Attack（Wolf Baschung 監督、1998年、14分、英語）

- サンダンス映画祭、ドーヴィル映画祭、ロンドン映画祭などに出品。
- 監督は現在映像を所持していないが、ジョージア大学が VHS を所蔵している。

Der Eisbär（Til Schweiger 監督、1998年、87分、ドイツ語）

- 三組の主人公を中心に構成される長編群像劇の一部が「パン屋再襲撃」にもとづいている。ファストフード店を襲う主人公は新婚夫婦から友人同士の男性二名に置き換えられている。
- 日本未公開。Constantin Video よりドイツ版 DVD 発売（1999年）

The Second Bakery Attack（Sohrab Noshirvani 監督、2008年5月14日、8分15秒、英語）

- 襲撃のシーンの直前、マクドナルドに到着する時点までを描いた作品。顔は出ないものの、回想シーンに夫の相棒が登場する。
- <https://www.youtube.com/watch?v=5JtHtE3Y-7U>

The Bakery Overture - Trailer（監督名不明、2009年1月8日、48秒、英語）

- 自主映画 *The Second Bakery Attack* の予告編。詳細および本編の有無は不明。
- <https://www.youtube.com/watch?v=9yMILsJTZec>

Der Bäckereiüberfall（Matthias Quaes / Giancarlo Pugliese 監督、2009年8月15日、1分2秒、ドイツ語／英語）

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

- BOD Videowettbewerb 応募作。全編白黒。中間字幕を用いたサイレント映画風の演出。作中に登場するワグナーの「トリスタンとイゾルデ」を使用。英語版もあり。

- <https://www.youtube.com/watch?v=qctYe97uQLo>

- <https://www.youtube.com/watch?v=LlSZEoy0caw> (YouTube、2009年8月16日、英語版)

The Second Bakery Attack [Official Trailer HD] (監督名不明、2010年3月11日、2分20秒、英語)

- 半年先の“November 4, 2010”に Arielle Ramirez 監督の *The Second Bakery Attack* が公開されるとする自主制作の予告編だが、実際に映画本編が完成したかは不明。

- <https://www.youtube.com/watch?v=Py-1rpjOv8s>

『パン屋再襲撃』 (*The Second Bakery Attack*、カルロス・キュアロン監督、2010年、10分14秒、英語)

- 監督の兄のアルフォンソ・キュアロンが製作総指揮を務める。ショートショート フィルムフェスティバル&アジアの主催により、東京都写真美術館で世界初公開された。

- <https://vimeo.com/759362803> (Vimeo、2022年10月11日)

『アコースティック』 (어쿠스틱、ユ・サンホン [유상헌] 監督、2010年、88分、韓国語)

- 三話構成の長編映画の第二話「パン屋襲撃事件」が「パン屋襲撃」に基づく。CNBLUEのメンバーを主人公に Kpop で成功を目指す二人が音楽好きのパン屋と取り引きする。

- ポニーキャニオンより日本版 DVD 発売 (2012年)

The Second Bakery Attack (Ian 監督、2011年5月26日、3分16秒、英語)

- “A student reworking” (学生による改作) と説明される。マクドナルドの看板から撮影地はスウェーデンと見られる。

- <https://vimeo.com/24256740>

The Second Bakery Attack (Gema Suárez 監督、2012年11月23日、8分20秒、英語)

- ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学の学生が制作。夫婦の代わりに大学のクラスメイトの二人が主人公となり、全員女性によって演じられる。

- <https://www.youtube.com/watch?v=bSS-HRtMMFg>

Snack Attack (2012年11月28日、2分38秒、ダイアログなし)

- 「パン屋再襲撃」の映像化。韓国系の女性とアフリカ系男性がマクドナルドを襲う。

- <https://vimeo.com/54484683>

The Third Bakery Attack (Brienne Jones 監督、2013年2月12日、1分57秒、ダイアログなし)

- 撮影地はアメリカか？ 登場人物が英訳の「パン屋再襲撃」を読んでマクドナルドを襲うという内容。

- <https://vimeo.com/search?q=bakery%20attack>

Another Bakery Attack (Dan Louis Scoot Zach) (監督名不明、2014年5月30日、4分22秒、英語)

- 「パン屋再襲撃」の新婚夫婦を男性の友人同士に置き換えた学生映画。一部のシーンは携帯電話の縦長の画面で撮影されている。

- <https://www.youtube.com/watch?v=pt7PG31QK-U>

《빵가게 습격 재해석》(Chae-yeon Ma 監督、2014年10月19日、1分50秒、ダイアログなし)

- 冒頭の「2014_1 Visual Contents Design」という文言から、授業課題であると考えられる。「パン屋襲撃再解釈」と題し、ラジオから流れるワグナーの音楽に北朝鮮のプロパガンダ放送の音声が重ねられる。

- <https://vimeo.com/109368233>

The Second Bakery Attack คำสารภีภาพยนตร์ (Hakuna Film Production、2014年12月21日、9分47秒、タイ語)

- 人文社会科学部映画テレビ学の最終課題。かつての相棒は女性が演じている。

- <https://www.youtube.com/watch?v=8thtzRd6yZI>

Gorzko! (Michal Wawrzeccki 監督、2014年、18分46秒、ポーランド語)

- カトヴィツェにあるシレジア大学クシトフ・キェシロフスキ映画学校の制作。「パン屋再襲撃」が原作。主人公の相棒は女性の恋人と明示され、主人公たちがパン屋に聴かされる音楽はワグナーではなくブッチーニの『トゥーランドット』である。

- <https://www.youtube.com/watch?v=3bcUdJZH4SA> (YouTube、2020年6月29日)

The Second Bakery Attack (Zhenzhong Zhu 監督、2016年7月4日、17分38秒、英語)

- New York Film Academy の学生映画。夫のかつての相棒が女性だったと解釈できる会話になっている。

- <https://www.youtube.com/watch?v=kjdDpTwhR48>

The Second Bakery Attack (監督名不明、2016年9月13日、1分46秒、英語)

- 2度目の襲撃から8か月後。3度目の襲撃を夢見る男性主人公は夢の中で第1回目の襲撃時のパン屋との取引を思い出し、車内で自分のこめかみを撃つ。

- <https://www.youtube.com/watch?v=BHo3ME7kKG8>

反復されるアダプテーション—「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術—（藤城）

Ponowny napad na piekarnie（Dominika Struzik 監督、2017年5月2日、3分、ポーランド語）

- 「パン屋再襲撃」を原作とするアニメーション作品。音声は効果音と音楽のみで、ダイアログの内容は画面上に文字で表示される。「相棒」は男性。
- <https://vimeo.com/215638788>

Bakery Attack（[Abhinav Ankit Kashyap 監督]、2017年12月26日、11分3秒、ヒンディー語）

- Film and Television Institute of India の学生映画。「パン屋襲撃」の内容が描かれる。
- <https://www.youtube.com/watch?v=w6Pa6KIXZDk>

The Second Bakery Attack (Official Trailer)（監督名不明、2018年4月9日、1分8秒、英語）

- Betsally Falcone 監督による自主映画 *The Second Bakery Attack* の予告編。本編が制作されたかは不明。原作にある海底火山のメタファーを示唆するショットが挿入される。
- <https://www.youtube.com/watch?v=mpWBfknxM54>